

実践記録

124

シリーズ

子育て講座 ー聖籠町の試みー

聖籠町公民館 社会教育指導員 渡辺 典子

○はじめに

聖籠町では、旧聖籠中学校校舎を公民館分館「結いハート聖籠」として活用しています。小さな調理室や多目的ホールを備えたこの施設を拠点にして展開された、二つの子育て支援に関する講座をご紹介します。

1 家庭教育学級「わたしへのごほうび講座」

*目的

一日中家事と子育てに追われている若い母親に、たまには子どもを預けて、自分だけの時間を作り、リラックス、リフレッシュすることで、自分自身を見つめ価値観を広げ、ゆとりのある子育てが出来るよう支援するものです。また、さまざまな実習や体験をすることで、学ぶことの面白さを知り、自分自身を啓発するきっかけとなればという願いも込められています。

実はこのタイトルは、以前研修会で事例として上がったもので、その発想の面白さに、これだ!と思いい、早速取り入れました。

子育てはどうあるべきかという勉強講座よりも、まず、母親の育児不安やイライラ、もやもやから解放することで、新たな気持ちで子育てに向き合えるのでは?との発想にもとづくものです。

堅苦しい縛りから解放されたいのは、母親ばかりではなく、企画する我々自身かも知れませんが。

*参加者の声

- ・たくさんの人と知り合いになれた。
- ・新しい体験ができて、子育てのごほうびをもらった気分になれた。
- ・自分の時間を持つことの大切さを感じた。
- ・気持ちが楽になって、リフレッシュできた。など

平成19年度の内容

	テーマ、及び内容	講師
第1回 11月20日	心が軽くなるコミュニケーション講座	心理カウンセラー
第2回 11月28日	カラーセラピー プチ体験-自分と話そう-	カラーセラピスト
第3回 12月4日	かんたん手作りおやつ	食生活アドバイザー

- ・就園前の子を持つ母親23名参加(3回とも保育ルームつき)

*平成20年度の計画

アンケートの結果から、今年度はさらに心身の癒しをテーマに、今話題のピラティスやフラワーアレンジメント、また、手作り弁当の薦めなどを計画しています。

2 新米ママの生活塾ー「レシピのない料理教室」ー

*主旨

最近の食に対する意識の低下と食卓の崩壊は、まさかと思うほど進んでいます。食はいのちを作り支えるもの。躰の基本も生活リズムの基本も、「食」をしっかりと据えることから始まると考えています。子どもを持つ若い母親をターゲットに、料理本をめくりながらの特別な料理ではなく、旬の食材を使って、毎日のご飯とみそ汁がおいしく食べられる簡単な「おかず」を作りながら、食生活を考えていこうという教室です。

受講期間は1年間で、月2回のペースで調理実習、現在8名の若い母親が子ども連れで参加しています。

平成19年度は、15回の調理実習で36種の料理と10種のみそ汁、13種のお菓子をつくってきました。聖籠町の郷土料理も定番献立となっています。

*参加者の声

- ・もう1年やりたい。
- ・暮らしの中から生まれた知恵や工夫が参考になった。
- ・苦痛だった毎日の食事の支度が楽しくなった。
- ・スーパーで買ってきたコロッケより、子どもと一緒に丸めたコロッケがどんなにご馳走か分かった。など

○おわりに

「社会教育は、社会『課題』教育である」という恩師のことは忘れずに、聞いて終わり、体験して終わりの企画ではなく、「学んだことで自分が変わった」といわれる講座を目指して、今年度も取り組んでいきたいと思っています。

